

事件名：偽造 3 5 0 円切手（部外秘情報）

発生時間：2011年11月初め

発生場所：東京都内

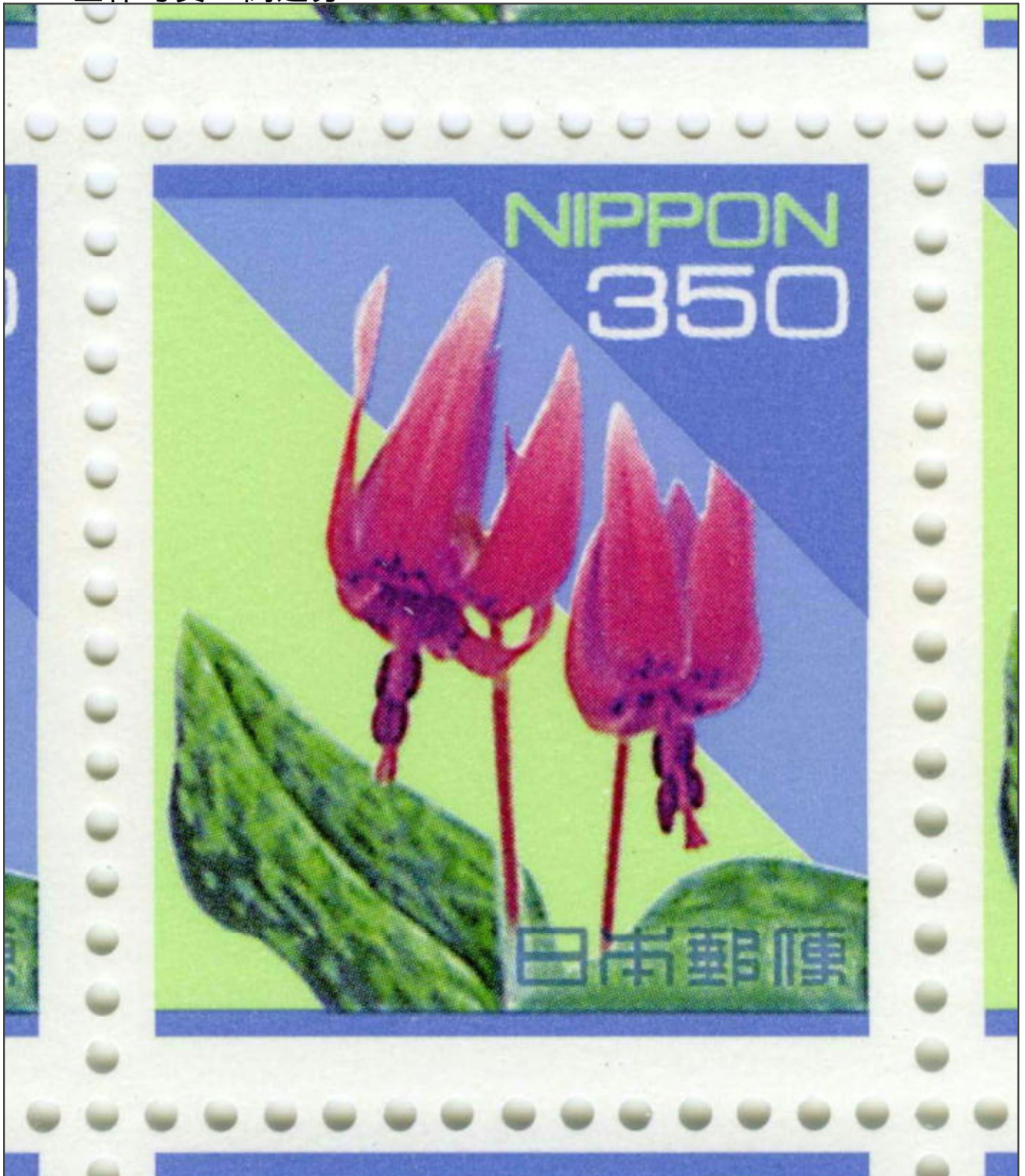
行使手口：詐欺換金

鑑定結果：偽造券（高精度）

偽造 3 5 0 円切手鑑定マニュアル

偽造通貨対策研究所編(作成日:2011/11/10)

1．全体写真：偽造券



掲載写真の拡大倍率

全体写真 × 9.4倍

部位写真 × 13.5倍

超拡大写真 × 120.0倍

撮影照明の光源

可視光 白色LED

赤外光 nm

紫外光 nm

2 . 全体写真：真正券



3 . 全体写真：偽造券裏面



350 円切手にはすかしや着色繊維などの偽造対策が施されていないためことから、裏面からの視認鑑定はむずかしい。しかしながら、見る角度により光沢が異なっている。真正券の方が光って見える。(右が真正券)



4 . 全体写真：真正券裏面

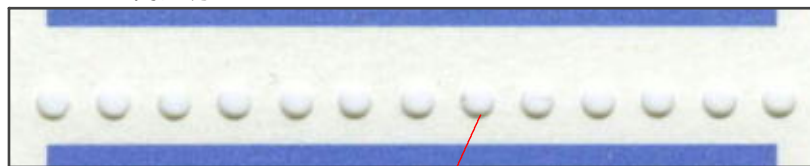


5 . ミシン目の位置と大きさ

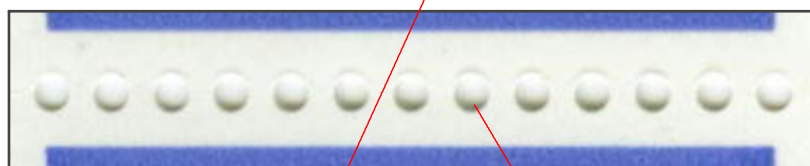
A) ミシン目の上下位置

シート状に連なる状態において、偽造券ではミシン目の上下方向の位置がやや下側になっている。ただし、個体差かも知れず、すべての偽造券がこの特徴を有するか不明である。また1シートの場合、偽造券では違いが発覚しやすいため耳紙(みみがみ)が除去された状態で持ち込まれている。

偽造券



真正券



偽造券



真正券



B) ミシン目穴の大きさ

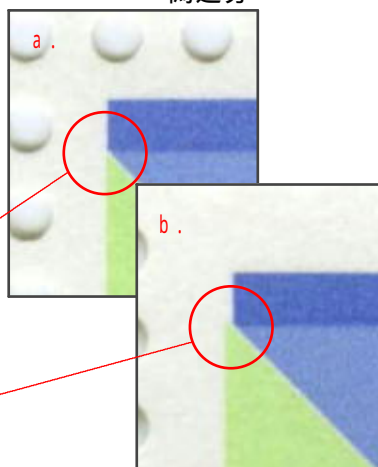
極く、わずかであるがホール直径は偽造券の方が小さい。ただし、極めて僅差である。

偽造券における穴の連続ピッチや貫通方向、及びカット深度は真正券と同等の出来映えで、この点からも手入れの行き届いた穿孔加工や製本等の印刷周辺設備を産業として保有する、大規模な偽造組織の関与がうかがい知れる。

6 . 印刷版のずれ

背景画像の青色、水色、緑色の三色の位置ずれに着目。偽造券では三色の位置がきれいに整っているのに対し(a.)、真正券では各色に微妙なずれが見られる。皮肉ながら印刷技術としては偽造券の方が上と言わざるを得ない。

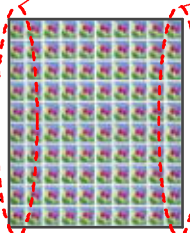
偽造券



真正券



100枚シート



ただし、偽造写真a. はシート内の左端に、b. は右端にあったもので、偽造シートは右へ行くに従い、徐々に緑色のずれが顕著となり、真正券のずれに似てくる。このように当該偽造券では1シート内において個体差があるため、鑑定に際しては複数箇所の鑑定要素を視認されることをおすすめしたい。



7. 網点の方向ズレ

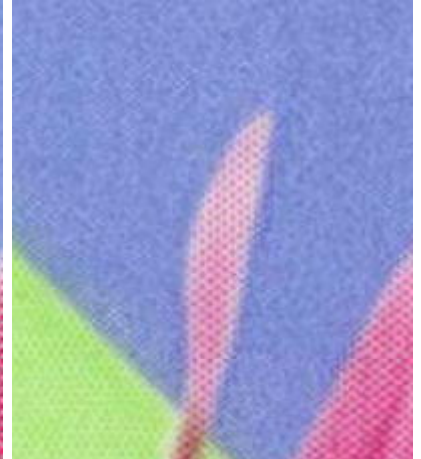
細い花卉に注目する。真正券では徐々に濃さがうすくなるグラデーション印刷になっているが、偽造券では下地となっている白抜き部分から赤版が右にずれて印刷されている。

偽造券では網点の粒子の大きさと並ぶ向きが真正券とは異なっている。

偽造券



真正券



8. 「N」字のかたち

表面右上の「NIPPON」について「N」字の転折部が、偽造券では丸みを帯びている。加えて、色が明るい。

偽造券



真正券



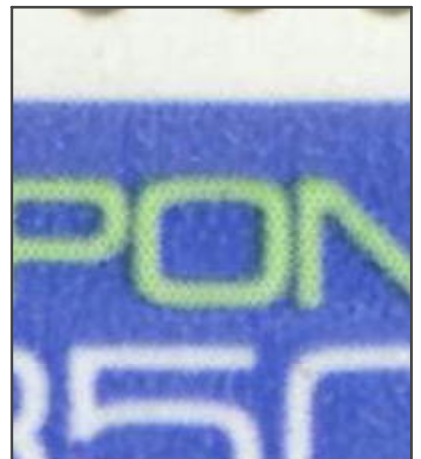
9. 「O」字のかたち

表面右上の「NIPPON」について「O」字の文字高が、偽造券ではやや大きく、角張っているのに対し、真正券ではやや丸みを帯びている。

偽造券



真正券





10. 「3」字のかたち

表面右上の「3」字の字体が若干異なっている。偽造券では始筆部に膨らみが見られ、むしろ真正券を上回るほど鮮明である。この逆転現象は、原版として用いられた真正券を意欲的に修整し、偽造券の出来映えをよくするための様々な努力が、高い印刷精度を生んだと言える。

偽造券



真正券



11. 印刷版の稜線部分 - その1

350円切手の背景画像は三色刷りとなっているが、偽造券では接合部分に微細に青版のずれと思われる白い線がある。

むしろこのことが稜線をはっきり、くっきり見せている。それに対して真正券ではぼやとした印象を受ける。

偽造券



真正券



12. 印刷版の稜線部分 - その2

前項と同様に、偽造券では接合部分に白い線があり、メリハリとして見栄えをよくする結果となっている。ベタ塗りの青色、水色部分においては偽造券の方がより繊細なできばえと言える。偽造券にはいろいろ工夫された再現技術が用いられている。

偽造券



真正券



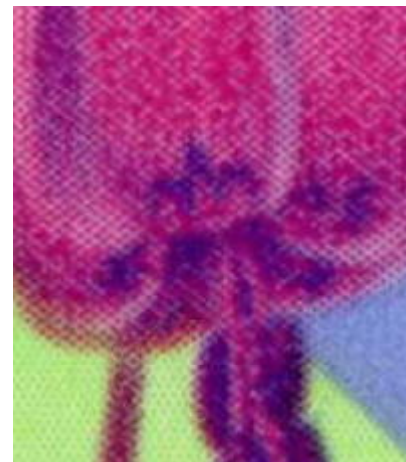
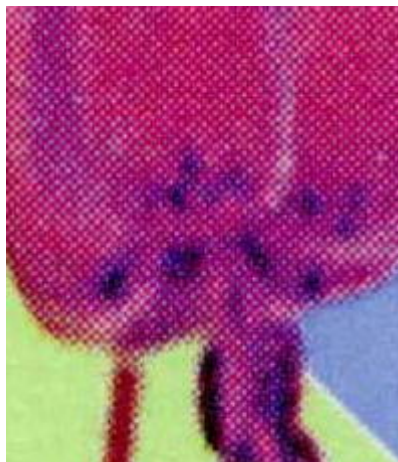
13 . 微細印刷 - その 1

花弁の根本には微細印刷が見られ、真正券では黒点が連なって印刷されているのに対し、偽造券では点在している。



偽造券

真正券



14 . 微細印刷 - その 2

真正券では花弁の一番奥の花弁の先端が3D、いわゆる遠近法で描かれているため奥行き感が感じられるのに対し、偽造券ではグラデーション（濃淡）が弱いいため、前後の感覚が失われ前方の花弁の一部のように見える。

偽造券

真正券



15 . 微細印刷 - その 3

茎の部分から花弁の根本には微細印刷が見られ、真正券では3本の線が描かれているが偽造券ではこれがつぶれ、1本の太い線になっている。

偽造券

真正券

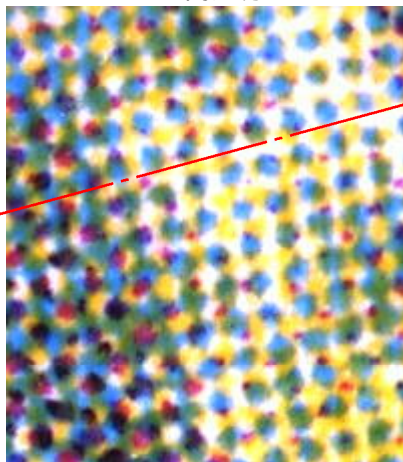




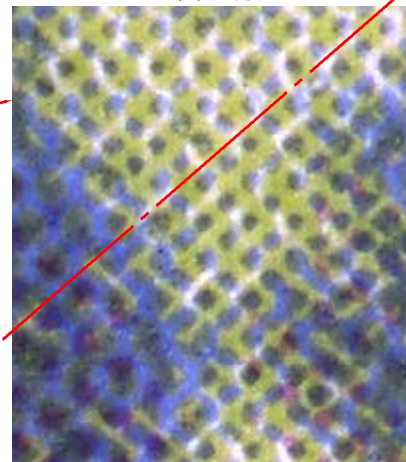
16．微細印刷 - その4

真正券、偽造券ともいわゆる網点印刷により印刷されている。倍率を100倍上げた画像では粒子の大きさと並んだ傾斜角度が異なっているのがわかる。偽造券のほうが緩やかな勾配となっている。この差異は両者が異なる印刷機で印刷された証左と言える。

偽造券



真正券



× 120倍(拡大倍率)

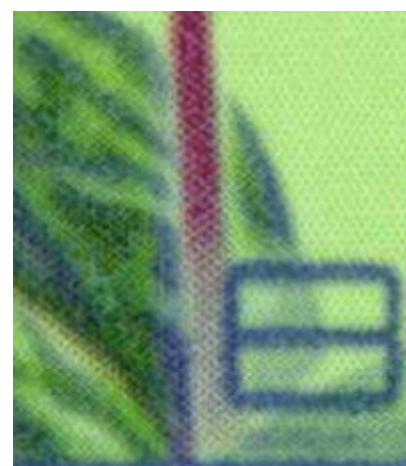
17．微細印刷 - その5

茎の根元の印刷が偽造券ではくっきり鮮明であるのに対し、むしろ真正券のほうが不鮮明ではっきりしない感がある。偽造券では色版の接合部分に微細に白い線があり、このことが鮮明さを出しているのは他の部位については見られる特徴と言える。

偽造券



真正券



18．文字のかたち - その1

表面右下の「日本」に注目する。文字についてもその他微細印刷と同様偽造券の方が真正券より鮮明なできばえとなっている。「日」の第3画横画線について偽造券の方が太く描かれ、転折部は真正券は丸みを帯びているのに対し、偽造券は角張っている。

偽造券



真正券





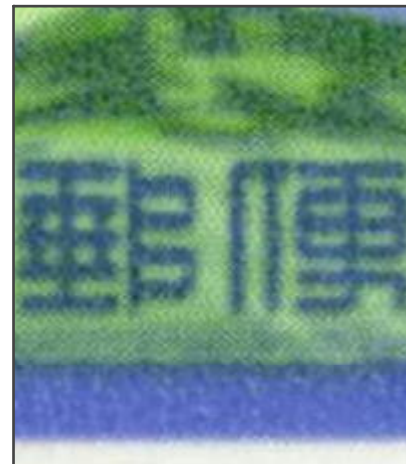
19．文字のかたち - その2

同じく表面右下の「日本郵便」の文字「郵便」に注目する。偽造券では「便」字の部首おおざと「卩」のかたちが微妙に異なっている。

偽造券



真正券



20．紫外線の蛍光反応

紫外線(ブラックライト)をあてると真正券は表面の余白紙面が黄色く変色発光する。



偽造券では蛍光反応は見られない。



表面

偽造券



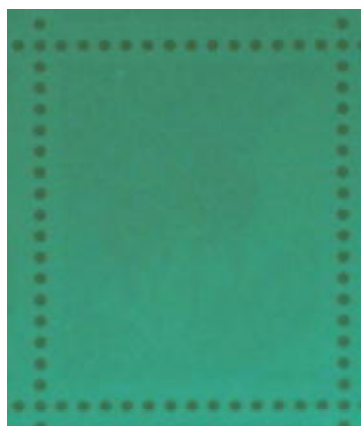
真正券



裏面では真正券では裏面全体が青白く蛍光反応が見られるが、偽造券では裏面も蛍光反応は見られない。

裏面

偽造券



真正券



注意 1) 偽造券にこのようなはっきりした差異(すなわちミス)がある場合、油断を誘い、後から修整版が大量に発行される可能性がないとも言えず注意を要する。過去にUCギフトカードではすかしのない偽造券が少量でた後、すかし入りの偽造券が大量に出回り被害が拡大した。

21．赤外線透過反応

赤外線を照射すると真正券では表面の画像が消えて見えなくなる。しかしながら、偽造券ではそのような現象は見られない。これは真正券において偽造対策として赤外線インクを使用しているからで、偽造券では一般顔料インクが使用されているものと解される。見える方が偽造である。

（赤外線は人間の目に見えないのでTVモニターが必要）

赤外線は人間の目に見えないので、視認するためには赤外線センサーとTVモニターが必要である。

表面

偽造券

真正券



裏面

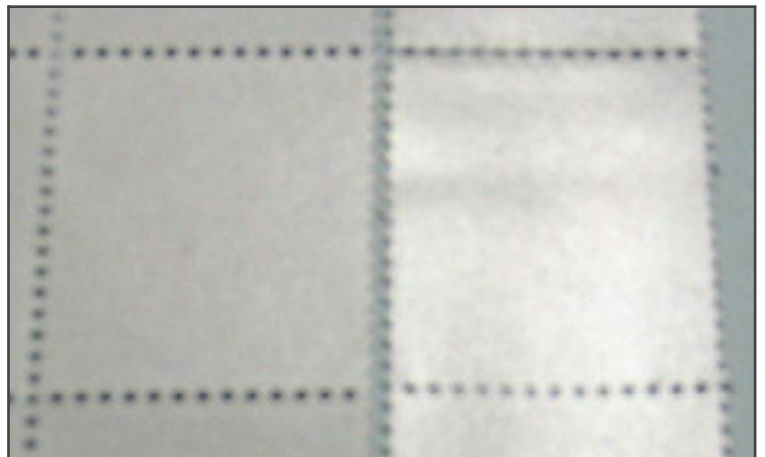
22．斜光線による紙面光沢の視認

切手の裏面には乾燥した糊が塗布されているわけであるが、室内照明にあてると真正券では糊の光沢が視認できるのに対し、偽造券では光沢は感じられない。真正券では糊の作用でわずかに裏側へ湾曲（表=山、裏=谷）しているが偽造券では作用が弱いため比較的平らである。

裏面

偽造券

真正券

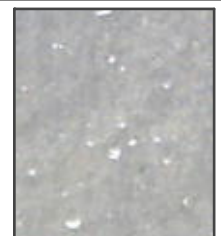


裏面は質感としては右図のようである。真正券では糊の光沢が視認できる。加えて、本稿では表現できないが真正券には糊特有の臭いがある。

以上、



偽造券



真正券

顕微鏡写真
（超拡大）

編集者：偽造通貨対策研究所

(2011.11.10)